

シメーターというのがあるんです、酸素を測る機械が。その酸素を測る機械を保健所に100台しか置いてなくて、それが自宅待機する人には全部それを持たせてあげたいんですよ。それを対馬市が100台でも買って、自宅待機する人に貸出しをできないかと。そうしたら、94以下になれば病院に行くようになっているんです。それで、93や90になれば危ないんですよ。だから、そのパルスオキシメーターというのは5,000円か6,000円なんです、1台が。だから、それを対馬市が買って自宅待機する人たちに貸出しはできないのでしょうかということをお願いしたかった。時間がありませんので、また後で返事を下さい。

○議長（初村 久藏君） これで、7番、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開を1時20分からといたします。

午後0時14分休憩

午後1時20分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

日程に入ります前に、市長及び上対馬振興部長より、午前中に入江有紀君の一般質問に対する答弁について発言の申出がっておりますので、これを許可します。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 午前中に入江議員の一般質問の中で「協議会に出向していた職員」と発言をいたしましたけども、「出向」ではなく、「協議会業務に従事していた職員」でありますので、訂正をさせていただきます。

議長において善処いただきますよう、よろしくお願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 上対馬振興部長、阿比留裕君。

○上対馬振興部長（阿比留 裕君） 午前中に入江議員の一般質問に対する答弁におきまして、業務委託先が特定できる発言をしておりましたので、該当部分につきまして議長において善処していただきますよう、よろしくお願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） ただいまの市長及び上対馬振興部長の申出によりまして、会議録を確認の上、該当部分につきましては適切な処置を講ずることといたします。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、こんにちは。会派、未来改革の1番議員、糸瀬雅之でございます。

お昼からの一般質問ということで、非常に眠さが来る時間ではございますけれども、私の一般質問に50分間付き合いをさせていただきたいと思っております。

一般質問に入る前に、今の対馬市の現状について少しお話をさせていただきます。

7月中旬より、対馬市におきましても新型コロナウイルス第7波の爆発的な感染拡大が続いております。9月9日発表終了までに市内におきまして3,200名を超える感染者となっております。感染されました市民皆様の一日も早い回復を祈り、日常生活を送っていただきたいと思います。

また、感染者の対応に御尽力をいただいております医療関係者、介護関係者の職員、長崎県対馬保健所、対馬市職員の皆様には連日の感染者の対応措置や、対馬市消防署職員の皆様には連日の対馬病院への感染者の救急搬送業務に対しまして、大変な業務にかかわらず本当に敬意を表したいと思います。

また、先週、対馬市を襲いました台風11号の影響により、対馬各地で被害に遭われました市民皆様には、この場をお借りいたしましてお見舞いを申し上げます。また、引き続き台風14号が接近しております。市民の皆様には気をつけていただきたいと思います。

対馬市は、今、世界情勢の悪化や新型コロナウイルスの影響、地球温暖化の影響による、いつどこで起きてもおかしくない激甚災害など、大変な時代に直面しております。しかしながら、比田勝市長は対馬市民の命と生活を守る使命がございます。今、まさに対馬市の緊急事態だと思って、今回は対馬市民の生活に直結した一般質問をさせていただきます。

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず1点目の対馬市の経済対策についてでございます。

今、対馬市はコロナ第7波の影響で爆発的な感染が続いておりますが、ロシア、ウクライナの影響、円安も重なり、原油価格、多種多様な物価の高騰により対馬市民の経済対策が喫緊の課題であります。

国の地方創生臨時交付金や一般財源を活用し、苦しんでいる市民にピンポイントで交付金が支給されるよう、今後の補正予算編成について市長の答弁をお願いします。

次に、対馬市の農業振興策についてでございます。

まず1点目は、荒廃農地、いわゆる耕作放棄地の今後の再生利活用について、具体的な対策方法について市長の答弁を求めます。

次に、2点目は農業に従事する将来の若手後継者の人材確保について、今後、どのような対策を考えているのか、答弁をお願いいたします。

3点目は、農業用肥料や畜産用配合肥料の物価高騰対策について、全国的に農業用資材、農業肥料、畜産用飼料などの物価の高騰がテレビ新聞等で報道されており、対馬市におきましても生産者への影響が危惧されており、物価高騰対策として今後どのような対策を考えているのか、答弁をお願いいたします。

最後に、対馬市民の交通の利便性についてでございます。

まず1点目は、対馬北部地区出身の島外に出られます帰省客並びに国内観光客のために、福岡・比田勝間的高速船ジェットフォイルの運航が期間限定、ゴールデンウィーク、お盆、年末年始の期間、運行ができないか、答弁のほうをお願いいたします。

2点目は、対馬出身者の福岡・対馬間の航空券並びにジェットフォイル料金が、現在の島民割引と同等の料金割引が同じく期間限定で導入できないか、答弁をお願いいたします。

以上、3項目、5点についてよろしくをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市の経済対策についてでございますが、令和4年度の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金に係る交付限度額は、前年度からの繰越し分を含む全体額は5億154万5,000円で、うち、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分は2億828万7,000円であります。

この交付限度額に係る全体の対象事業費は、一般財源を含めて6億1,614万5,000円で、うち、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分は2億7,533万1,000円となっております。

次に、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応事業についてご説明いたします。

令和4年度の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金実施予定事業中、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応事業は、離島航路・航空路事業者に対する航路・航空路緊急支援事業として航路事業者3社にそれぞれ600万円を、空路事業者、ORCですね。ここ1社に1,000万円、また、航路のバンカーサーチャージャーの高騰に伴う運賃の一部を支援する離島航路燃油高騰対策事業として7,200万円の支援を行います。

次に、陸上交通については、タクシー事業者及び大型・普通貨物自動車1台当たり10万円、小型・軽貨物自動車1台当たり5万円で、1事業者最大300万円を上限に支援いたします。

また、一般貸切旅客自動車運送事業者は、本年2月から7月までの使用燃料1リットル当たりに対し、10円の支援を行います。

市内路線バス事業者には、公共交通燃油高騰対策事業として1台当たり12万円、漁業者の漁業用燃油価格の高騰に対応した漁業用燃油高騰対策事業として使用燃料1リットル当たりに対し、10円の支援を行います。

対馬の特産品であります原木乾しいたけ生産者に対する原木乾しいたけ生産維持事業として種駒1個当たり0.5円、また、飼料の高騰に対応する畜産濃厚飼料費支援事業として飼料購入に対し、トン当たり1万4,000円を、学校給食の食材高騰に対応する学校給食費負担軽減事業

では、小中学校全校生徒を対象とし、約490万円を助成いたします。

本市を取り巻く状況といたしましては、本年9月7日から外国人旅行客の入国制限が5万人に引き上げられ、添乗員を伴わないツアー客の入国が可能となったほか、陰性証明書の提示が不要となっております。

円安を背景にインバウンドの増加が期待されるものの、ビザの取得や団体旅行のみの制限等の課題がございましたが、今週の報道等によりますと、早い段階での改善が検討されるというふうになっております。

また、本市における国際航路の再開がまだ不透明な状況であり、加えて、燃油・物価の高騰により市内経済は大きな影響を受けていると承知しております。

先般、実施しましたキャッシュレス決済促進経済対策事業は、その対策として消費意欲の向上を図りながら市内経済の下支えを行う振興対策であり、今後も状況に応じ、同様の事業を検討してまいります。

また、国においても、原油価格・物価高騰対策が検討されており、市においても、国、県の施策と連携しながら市内各事業者の問題点等を注視し、必要な対策を進めてまいります。

次に、農業振興策についてでございますが、まず1点目の耕作放棄地の再生利活用の対策について、中山間地域等直接支払交付金事業や多面的機能支払交付金のほか、農地中間管理機構により、延べ731ヘクタールの農地保全に取り組んでいるところでございます。

農地の貸し手は多いものの、日当たり、面積狭小、飛び地など、条件が悪い農地は借り手が少ない現状にあります。今年度より農振農用地区域内のうち、簡易な整備で解消可能な遊休農地を対象とした遊休農地解消緊急対策事業が整備される見込みであり、今後もこれらの補助事業を有効に活用して耕作放棄地の防止に努めながら、集落営農組織の活動を支援する持続可能な農業の振興を図ってまいります。

その事例として、今現在、耕作放棄地における、そばの作付やユズの植えつけが行われているところでございます。

2点目の若手後継者の人材確保の具体的な対策としまして、対馬地域就農支援センターを農協、県、市で組織して就農相談を受け付けております。

また、新規就農者の支援策としまして、県が取り組む就農準備資金と市が取り組む経営開始資金がございます。

経営開始資金につきましては、平成24年度から始まりました農業次世代人材投資資金事業により、これまで19名の新規就農者が定着することができましたが、近年は相談件数も少なくなっていることから、今後においても地元高校生や島内外から就農を希望する方へのお仕事説明会を実施するなど、担い手確保に取り組んでまいります。

3点目の物価高騰対策の具体的な取組について御説明いたします。

農業の生産資材や農産物の価格変動を表す2021年の農業物価指数によりますと、生産資材は前年より5%上昇し、さらにコロナの影響等で農産物の販売価格は全国平均で3%低下するなど、資材の高騰分が販売価格へ転嫁できていない非常に厳しい状況にあります。

このことを踏まえて、畜産業の配合飼料につきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金において、上昇分の2分の1を補助することにしております。

また、化成肥料におきましては、現在、国において肥料コスト上昇分の7割を支援する肥料価格高騰対策事業の制度設計が行われており、詳細が明らかになり次第、取り組んでまいります。

次に、3点目の対馬市民の交通の利便性についてでございますが、まず期間限定での比田勝港までの高速船の運航計画についてでございます。

福岡・比田勝間のジェットフォイルの運航につきましては、平成13年11月より厳原港から比田勝港まで延伸し、運航を開始いたしました。

平成14年は、乗客・降客合わせまして1万9,304人の利用がありましたが、利用者の減少により平成20年11月4日からは繁忙期のみの運航となり、平成22年度には、再度、通年の比田勝港延伸に向け、3週間の実証実験を行いました。その期間の1便当たりの利用者数は9人でありました。

その後、平成25年、年始の運航以降は完全運休となっております。また、比田勝港延伸運航の期間は比田勝港発着時刻の影響等により、航路全体の利用者数が減少し、航路事業者が経営的負担を強いられる状況でありました。

繁忙期となる期間のジェットフォイル運航は、博多から壱岐間を含め通常4往復から6往復のダイヤとなっており、比田勝港まで延伸すると1時間を要することとなり、臨時配船のダイヤ編成が厳しいものとなります。

さらに、年末年始の時期は日中の時間が短く、博多港出港時刻は早くなることにより、全体の利用者数が減少する恐れもあると思われ。現在のコロナ禍で航路事業者においては経営状況が悪化し、いまだに見通しが立たない状況であり、比田勝港までのジェットフォイル運航を再開することは非常に困難であるということについて御理解をいただきたいと思っております。

次に、期間限定での島外の対象出身者の準島民割引制度の導入についてでございますが、令和4年第1回定例会で同様の一般質問でもお答えしたとおり、有人国境離島法において特定有人国境離島地域は本土から遠く離れ、交通に要する時間や費用の負担が大きいという条件不利性に鑑み、継続的居住が可能となる環境を確保する観点から、対馬市に住所を有する市民は平成29年4月1日から離島と本土とを結ぶ航路・航空路の運賃を、それぞれJR普通運賃並みから新幹線運賃並みに軽減された運賃となっております。

航路・航空路の利用状況につきましては、いずれにおいても運賃低廉化の効果により、年々増加傾向にありましたが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、減少しております。

対馬島民と島民以外の利用割合を見てみますと、航路・航空路全体の割合は、島民が約4割、島民以外が約6割を占めており、運賃の安いフェリーについては、約7割が島民以外の利用となっております。

対馬島民以外における運賃低廉化の対策につきましては、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金交付要綱で定められた基準に該当する者のうち、あらかじめ大臣の承認を得なければならないこととなっております。

住民に準ずる者、準島民の基準は、1点目として対馬市民が扶養している対馬島外に居住している高校・大学及び専修学校等の各種学校に在学する学生等、2点目として、対馬市が移住・定住促進施策の一環として行う事業によって、体験居住、体験就職、居住物件の探索等のために該当する者、3点目として、対馬市が交流拡大施策の一環として行う事業によって来島し、一定期間、学習、研修、就労実習等を行う者となっております。

また、新たに要介護認定等の住民を介護するために反復継続的に来島する親族を準島民の対象とするよう、島民割引カード発行要領の改正を進めているところであり、10月1日より運用を開始する予定であります。

準島民としての適用範囲については、先ほど申し上げました3項目が拡充された経緯がありまして、以降、これまでも、長崎県市長会、国境離島活性化推進特別委員会等からも、国・県へ強く要望してまいりました。

今後におきましても、議会と共に関係市町と連携して島民以外の運賃低廉化に向け、取り組んでまいります。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

まず、対馬市の経済対策について一問一答でお願いしたいと思います。

この7月から非常にコロナに感染いたしました。そこで、まずこの感染者の拡大は市長のお考えを、一番の原因は何だったのか。そして、一般企業への影響が危惧されておるといふ、連日のように放送されておりました。その一般企業の、危惧されているのはどういった企業だったのか、そこをまずお答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず1点目の感染拡大の原因はということでありますけれども、この

ことにつきましては、やはり、お盆にかなりの帰省客が帰ってこられて対馬の親族等との交流が盛んに行われた。このことから、お盆明けから急激に感染者が増えてきたというような分析をしております。それとまた企業等に、事業への影響が心配というようなことでありますけれども、やはりコロナの感染者、そして、またいろいろな、何て言いますかね、感染者等がかなり出ておりますので、その企業自体が順調に動くのかというようなことも私も心配をしておりました。

そういう中で、また、今回の質問等でも上がっておりますように、市といたしましても、できる限りの支援を講じてまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 一般企業、市長は、今、出てきませんでしたが、やはり医療関係者、医療従事者ですね。コロナによって、仕事上、休まなければならない保護者とかそういった方々への影響というのは、やはり一番は医療関係、介護関係です。そこはしっかりと認識をしとかなないと駄目ですよ。

次に、今、こうやって物価の高騰が全国的に、そして、日本も対馬のほうも、こうやって物価の高騰が続いているのはもう皆さん分かると思いますが、対馬の年間の平均所得、これを私は調べてみましたら、年間平均所得は社会保険とか国民保険等控除して大体300万円前後なんです。年間所得です。それを月平均しますと25万6,000円ぐらい、1人当たり。

これは長崎県でも意外と対馬市の平均所得というのは、市民の平均所得ですね、第2位から3位なんですよ。しかし、物価は第1位です。やはりそこら辺が、今後、食料品が年末にかけて、まだまだ1万品から2万品と言われてはいますが、テレビ等で報道されております。

この地方創生臨時交付金、今回、私は質問をさせていただいておりますが、令和2年度から令和4年度までコロナ対策等に対応した予算が組まれていましたけれども、大体幾らぐらい、令和2年度から令和3年、令和4年、予算を組まれたか、お願いします。部長、お願いします。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） コロナに特化した交付金ということで、令和2年度が補助金ベースで9億3,400万円、令和3年度が4億900万円、令和4年度が5億150万円でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

今回、昨日の議会でコロナ対策に関する専決処分の予算が承認されました。その中で、3億近く予算のほうがございました。この専決処分に関するところで、この大事な3億円の予算を専決処分にするという、あまりにも、この議会を、議員の皆様19名を無視した行政側の対応ではなかったかと思えます。

これを決めたのはどなただったのか、市長、答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） これは、6月議会には間に合わなくて、その後、各部署からのヒアリング等を実施いたしまして、どうしても臨時議会を開くことが難しかったというようなことから、最終的には私が少しでも早いほうがいいというようなことで、専決予算ということで判断をしたところであります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 市長、臨時議会を開くのが難しかった。それは理由になっておりません。臨時議会を開くのは、やはりこういった大きな予算を組むのには開かなきゃ駄目ですよ。今後、このようなことをされていたら、やはり議会軽視です。

そう思いませんか。私はそう思います。

次に行きます。

このような3億円近い感染対応予算が組まれています、いろんな部署から予算のほうが上がってきていると思います。昨日も話しましたように、観光商工関連の予算、これが今、本当に必要な予算なのかということを考えていただきたい。観光物産協会に対する業務委託、これ業務委託というのは島外に出されるんですよね。島外の業者に出される業務ですよ。部長、お答えください。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 4事業を挙げておりましたけれども、観光物産協会のほうへ委託するものが2事業ございました。これは島外ではなく、対馬観光物産協会へ委託した委託料ということになります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 対馬観光物産協会がこの業務委託を全てやられるんですね。そこからまた外注に出されるんじゃないんですか。外注に出されるんですよね、これは、委託は。違いますか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 観光物産協会に出すものについては、基本的には、観光物産協会内で処理できるものはしていただきまして、一部、専門的なものが要るものについては島外といたしますか、その専門のところへ再委託ということも考えられますけれども、基本的には観光物産協会の中で受け皿としてやっていただくというふうに考えています。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） はい。分かりました。

それで、本来、経済対策ということで、本当の経済対策というのがどういった予算なのかというのを、やはり前に座っていらっしゃいます部長あたりは、本当の市民が困っているのが経済対策に対する予算だと私は思っているんです。本来、こういった予算を組む際に、本当に現場の声を聴かれているのかというのが、私が言いたいのはそこなんです。机上で物事を判断するのではなく、本当に困っている市民の、ピンポイントでどこが困っているのか、そういったことを現場に出向いて聴かれたことはありますか。

市長、どうですか。答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私は、なかなか現場に出向くことはちょっと難しいということで、いろんな場所でいろんな声は聴いているところがございますので、今回の予算についても、やはりそういったいろんな声を聴いた部分を予算として計上したというふうに認識しております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 現場の声を市長が聴かれているということで、予算のほうは、また後は、次は農業関係のほうで質問をいたしますので。

まず、総務部長にお尋ねしたいんです。

今、対馬市のほうから不祥事に関して、前回、6月は6,000万円の不祥事に関して財政調整基金から充てられましたが、今、財政調整基金は8月末現在でどれくらいあるのか。そして、予備費がどれくらい今、残っているのか、お答えください。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 財政調整基金が現在の残高で約23億5,700万です。予備費なんですけど、一応、当初予算で6,000万円計上いたしておりました。それで、現在の残高が約2,700万円。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 2,700万ですか。

○総務部長（木寺 裕也君） はい。それで、今議会で上程しております補正予算（第6号）で2,000万円追加するように予定しております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、財政調整基金が23億5,700万あるということで、まだいろいろとこういう燃料関係に関しては、やはりこのように、今回、いろんなタクシー事業者とかそれぞれ高騰に対して上がっています。これはいいことだと思います。

しかし、今、ロシア・ウクライナの情勢で、大変、穀物類が値上がりしている状況なんです。小麦、そして、砂糖、食用油、それから包装資材等、いろんな部分。そして、対馬市にもやは

りパンを製造する業者、洋菓子店、そして、うどん店など、いろいろな。本当に物価が上がって大変な状況、そういった方々の現場の声を聴かれましたか。農林水産部長、どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） 多岐にわたることについては調査いたしておりません。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 多岐にわたるではなくて、農林水産部長、やはりこういった物価の高騰とかこういった小麦関係は農林水産部の管轄だと思います。私はそういった現場の声を、パンを製造される工場、洋菓子店、皆さんが本当に「今、高くなっています」「高くなっています」と。「どうかしてください」と私は行きました。「市役所の方も誰も来ません」と。そういった現場の声を聴いてくださいというのが私の考えでございます。

今、対馬市の経済はいろんな部分で落ち込んでおります。やはり対馬市の職員も我々議員も一緒になってやっていかないと、市長が求めております「対馬市をワンチーム」という言葉。本当に寂しいでしょうけど、厳しいけど、今、なっております。もう少し、行政側も我々議員もそうです。一緒になって市民と今、苦しいことをどうやったら乗り越えられるか、そこをやっていかないと駄目だと思っております。

次に、農業関係について質問したいと思います。

まず、耕作放棄地についてでございます。市長は、今、対馬市の農産品の中で特に何と何と何に力を入れてやっていこうという考えなのか、お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） なかなか対馬の農産物を特定していくということは難しいことはありますけれども、ただ、私も農林水産部長時代に推奨したのは、やはり効率的に収入が上がるということでアスパラガスの生産を推奨してまいりました。

そのほかに、やはり対馬は特産品であります、そば等について耕作放棄地がまた出てきていますので、こういったところで、そばの植えつけ、それとまた今後、対馬の特産品となるべくユズ等の新植等を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 市長の今の言葉の中に「しいたけ」という言葉が出てきませんでしたが、対馬はやはりしいたけ、米、アスパラ、そういったのを前回は市長、私の答弁の中で聞いたと思います。農業に関する方々も非常に原油が、ここに今回上がっているのは、しいたけ生産者の種駒に対して350万円、今回、予算が上がっております。

しかし、この種駒に関する予算なんですけど、これは期間は、種駒を買ったのはいつからいつまで購入した期間なんですけど。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ちょっと私の説明が悪かったかもしれませんが、このしいたけの種駒につきましては、しいたけを乾しいたけにするときの油代に対して、この種駒の個数で算定をするということで上げている分でございます。種駒は種駒で当初予算のほうで補助は上げているところであります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今回の予算の中にですね原木乾しいたけ生産維持事業補助金350万。これは原油高騰分に対する、今、種駒ということじゃないんですか。だから、原油が今、上がっているのに対しての種駒の補助ということと認識しているんですが、これは原油に対する補助ならば種駒は関係なく、一律、しいたけ生産者に対して一律10万円とか、そういった形の補助がよかったんじゃないでしょうか。

農林水産部長どうですか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。しいたけ乾燥機の燃油は灯油、それから、A重油。物によってはバーナー、ガス。それから、古い形になると、まきの兼用というのが使われているのが一般的でございます。

化石燃料につきましては汎用性がございまして、購入した伝票だけでは、そのしいたけ乾燥機に幾ら使ったのかということの検証ができないということですので、種駒1個に重油が、重油といますか、燃油が幾ら上がったのか、それを種駒に換算してそれで補助しようということなんです。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 細かいことはよく分かりませんが、しいたけ生産者に対しては、今後、農業生産者は米等の乾燥を。乾燥機を使えますとやはり原油等も高くなっております。今後はやはり農業の米関係の方々にも補助は対象として考えてあるということでしょうか、市長。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） しいたけ等に関しましては、やはり乾しいたけにするときの燃油高騰対策が必要ということで、先ほど議員もおっしゃるように、現場からの声が多くありました。

そういう中、ただ、米の乾燥機関係については私も実態はよく分かりません。電気を使ってあるのか重油を使ってあるのか、そこら辺も踏まえて、実際に米の乾燥についての高騰対策といった要望は、現時点では私の元には届いておりません。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 現時点では届いてないということで、今から届く。多分届くと思

います。その際にはやはり第1次産業の方々を本当に。水産関係は原油高騰でかなりの補助金が出ましたよね。第1次産業の農業に関してはあまり補助金が出ておりません、原油価格に関して。ですから、本当に現場の声、農林関係の職員の方々にもお願いなんです、やはり多くやられている生産者に現場に行って、本当の生の声を聴いてみてください、どういう状況かというのを。他の部長あたりでもいいですよ。近くで農業されている方に聴かれて、そして、市長に声を上げてください。こうやって大変ですと。そうすれば市長に声が届きます。

よろしいでしょうか。部長の皆さん、よろしいでしょうか。お願いします。

次に、時間があまりありませんので、人材関係についてお尋ねをします。

農業の後継者です。農業の後継者についてやはりいろいろと今どこも、全国的に農業関係の後継者が少なくなっております。それで私が一番もう簡単に今いっばい言いたいんですが、市長、今、日本人だけの移住者ということを考えずに、長崎県の大石知事も結構、前向きに考えられているのが外国人の特定技能労働者の受け入れ態勢。対馬市でも2019年4月に国が人手不足解消のために認めた12業種の特定技能資格を持った外国人労働者の受け入れ制度ができております。これをしっかり勉強されて、対馬市にも。今、建設業とか水産業にはそういった外国人の労働者が入っております。これをぜひ農業部門にも1人でも2人でも3人でもこういった東南アジア系を中心とした外国人の労働者を農業として対馬に雇い入れていく。こういったのを少し勉強して行ってほしいと思っております。

それと職員。今、対馬市の職員を見てみますと、農業の専門の職員がちょっと手薄ではないかと思っております。今、県のほうはやはり農業を専門とした職員がいますが、対馬市もやはり高校の。長崎県には4つの農業高校がございます。市長も優秀な農業高校を卒業されていますので分かると思いますが、福岡県にも9校、専門の農業高校がございます。大学も諫早に農業大学がございます。

そのような専門の高校生あたりを対馬市も採用を少しは考えていったらどうかと。そこは勉強していただいて、やはり専門とした土木や行政とかいらっしゃいますが、やはり農業を専門とした職員をぜひ少しずつ考えていただきたいと思います。いろいろと今回たくさん質問をしたかったですけれども、時間の関係上、トイレ関係は次回にまたやらせていただこうと思っております。

それとあとは混乗便。やはり混乗便の動きが分かりましたら答弁のほう、お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 最後の質問、混乗便ということですかね。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 最後に混乗便が、韓国からの。何かありましたら。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、現時点で分かっている混乗便の情報については、今まで、釜山、

比田勝、そして、博多を運航していた旧B E E T L Eは伊万里の造船所の方にあげている。それでこの韓国便が再開されますとQUEEN B E E T L Eが釜山・博多の間に就航させるという情報までしか私も聞いておりません。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

私はこれで一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、1番、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を2時半からといたします。

午後2時13分休憩

午後2時30分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 午前中の会派代表質問で廃校舎に関する質問がございました。

例えば、地域で利活用をしたくても広大なグラウンド内の雑草処理に難色を示されてなかなか活用できないというようなことが、お話が上がっておりますので、定期的な管理の御検討を何とかお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

それでは、初めに、本日の質問は新型コロナ感染拡大における本市の役割と救急搬送の実態について、それから、悪性疾患の副作用の影響による脱毛に対し、医療用ウィッグ購入費の助成についての2点6項目について御質問いたします。

本年、7月末から国内の新型コロナ新規感染者数は4週連続で世界最多と世界保健機関、WHOから報告されておりました。

本市でも、感染者数は、8月中旬以降、最高値に達し、市民生活や社会機能に影響を及ぼすなどの緊急事態に陥り、比田勝市長は自ら対馬市CATVで緊急会見が行われました。本日は「新型コロナ感染」というワードにどう向き合っていくかなど、課題解決のために本市の具体的な取組と本市の役割についてお尋ねをいたします。

1項目めでございますけれども、9月9日をもって終了いたしました市内の感染情報放送やオミクロンの変異株に有効なワクチン接種への通知は本市の業務として捉えていますが、新型コロナ感染症の収束に向けて対馬保健所と市内医療機関の連携は不可欠と思われます。一向に収束の兆しが見えない新型コロナ感染について、市民の皆様からの問合せに関する対策窓口は設置されているのでしょうか。